

わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる(3)

— 南新木4丁目「遺跡の公園」と「羽黒前館」 —

我孫子市史研究センター ^{いいじろ} 飯白 和子

今回は、南新木4丁目にある「遺跡の公園」と羽黒前遺跡の話です。

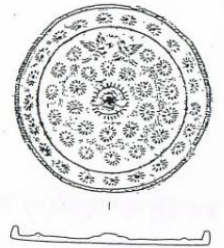
羽黒前遺跡からは、縄文時代の土坑1基、古墳1基と住居跡2軒、奈良時代から平安時代の住居跡253軒、建物跡23棟、方形区画墓1基、土坑群など、鎌倉～室町時代の空堀を廻らせた居館跡と建物跡7軒、江戸時代の建物跡10棟、方形土坑などが発掘されたといえます。

○「遺跡の公園」と「羽黒前館」

「羽黒前館」は、鎌倉～室町時代の居館跡といわれています。居館は、東西約140m、南北



130mの大きな堀で囲まれた3区画からなり、主郭は東西南北約80mの方形で、数回の建替えがあったといえます。居館の主が誰であったか分かりませんが、鎌倉時代の相馬郡は相馬御厨と呼ばれ相馬氏が在地領主として支配していました。相馬氏の一族か、島津氏(鹿児島県にあった島津荘の領主)に嫁いだ相馬胤綱(相馬氏の祖、師常の孫)の3番目の娘(尼妙智)が黒崎郷(我孫子市域と取手市稲および布川付近)



菊花散双雀鏡と銘文

(『我孫子市史研究』16号300頁)

の一部の村々を譲渡されているので、その島津氏の代官などが考えられています。

堀で囲まれた居館の一郭から「山吹蝶鳥鏡」が、居館の北西の台地から「秋草双鳥鏡」が、南西の台地縁の6世紀後半の古墳上の表土中から「菊花散双雀鏡」の和鏡が発見されています。「秋草双鳥鏡」は、鋏・小刀・カワラケ・青磁片とセットで出土し、中世の女性の墳墓の副葬品だといえます。居館の主の一族の女性と思われる。

「菊花散双雀鏡」には、鏡面に毛彫りで「敬白 奉懸羽黒権現御正体一枚 右為所願成就 円



満為也 建武五年戊刀八月)(1338年)と刻まれているといえます。羽黒権現とは現在の出羽三山(山形県の月山・湯殿山・羽黒山)の羽黒神社のことです。発掘調査される前まで、ここには天明6年2月(1786年)の「羽黒山権現」と刻まれた石宮が祀られていました。現在は香取神社境内に移設されています。これで「羽黒」という小字名も中世の信仰に由来していたことが分かります。現在、居館の壕の一部が「遺跡の公園」として保存されています。

「丘の公園」のように案内板の設置が望まれます。

(引用文献:『我孫子市史 原始・古代・中世篇』・『市史研究16号』)